

## 国際VLBI事業（IVS）の発足について

### On the Establishment of International VLBI Service for Geodesy and Astrometry

# 近藤 哲朗 [1], 小山 泰弘 [2], 松坂 茂 [3]

# Tetsuro Kondo [1], Yasuhiro Koyama [2], Shigeru Matsuzaka [3]

[1] 通総研鹿島, [2] 通信総研・鹿島, [3] 国土地理院

[1] KSRC, CRL, [2] Kashima, CRL, [3] GSI

1999年3月に国際VLBI事業（IVS）が発足した。IVSの主要な目的は測地学、地球物理学や位置天文学等の研究に役立てる、高品質なVLBIデータおよび観測成果を提供するためのVLBIプログラムを促進することである。特に国際地球回転事業（IERS）とは密接に連携し、天球基準座標系および地球基準座標系の維持と地球回転モニターに供するVLBIデータのすみやかな提供および公開を目指す。

1999年3月に国際VLBI事業（IVS: International VLBI Service for Geodesy and Astrometry）が発足した。IVSはGPSやSLRで行っている国際事業（IGSおよびILRS）に相当する事業をVLBIで行うことを目指すものとして、IAGのCommission VIII CSTG (International Coordination of Space Techniques for Geodesy and Geodynamics) の下のVLBI小委員会でその設立が準備されてきた。IVSの主要な目的は測地学、地球物理学や位置天文学等の研究に役立てる、高品質なVLBIデータおよび観測成果を提供するためのVLBIプログラムを促進することである。特に国際地球回転事業（IERS）とは密接に連携し、天球基準座標系および地球基準座標系の維持と地球回転モニターに供するVLBIデータのすみやかな提供および公開を目指す。さらに、VLBI技術開発活動の促進、VLBI参加者の育成及び訓練も目的としている。IVSは、ネットワーク観測局、オペレーションセンター、相関処理局、解析センター、データセンター、技術開発センター、調整センターの各コンポーネントおよび評議委員会、会員、準会員から構成されている。IVSへの参加国は16ヶ国（日本、中国、米国、カナダ、アルゼンチン、ブラジル、ロシア、ウクライナ、ノルウェー、スウェーデン、オランダ、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、南アフリカ）であるが、オーストラリアからの参加がなく、IVSではオーストラリアの関係者への参加要請を続けている。日本からは国立天文台（ネットワーク観測局、解析センター）、国立極地研究所（ネットワーク観測局）、国土地理院（ネットワーク観測局、相関処理局）、および通信総合研究所（ネットワーク観測局、相関処理局、データセンター、解析センター、技術開発センター）が参加している。評議委員会は13名で構成され（議長：W.Schlueter（独））、日本からも2名が評議委員（国土地理院および通信総合研究所から1名ずつ）となっている。IVS活動の主要部分となる技術開発、ネットワーク観測局の維持および質向上、データ解析の分野には、コーディネーターと呼ばれる責任者が置かれる（立候補者から評議委員会で選出）が、初代の技術開発コーディネータとしてA.Whitney（米）、ネットワーク観測局コーディネータとしてE.Himwich（米）が選出された。解析コーディネータはIERSの立場でIVS評議会委員となっているC.Ma（米）が行うことになった。IVS全体の調整を行う調整センターの代表はN.Vandenberg（米）である。また、IVS評議会の議長は、今後の活動としては、IVS年報の出版、ワークショップの定期的開催が計画されているが、日本としても、IVSに参加している4機関が中心となり、活動を展開していく予定である。